



IXL ライト メタルコンディショナーは金属が擦れ合う摩擦面（局圧点）にオイル又は水によって運ばれて皮膜を形成して摩擦を激減し 多目的に使用できる用途が広い添加剤です（エンジンオイル・ギアオイル・オートマオイル・パワステオイル・作動油・切削油・コンプレッサーオイル等へ）

★市販されている添加剤は自動車メーカーの指定製品ではありません 個人の責任でご使用下さい

どろっとした旧 IXL と違いハイブリッド車の 0w・5w などすべてのオイルへ添加できてサラっとした粘度です
そのため IXL の成分がボトルの下へたまり易いので 使用前に十分に振って攪拌して下さい

- IXL ライトはオイルと共に金属摩擦が生じる局圧点へ運ばれて皮膜を形成して摩擦を激減します
- IXL ライトはオートマトラブル（シフト時の遅れ、ショック）など ほとんどの不具合が解消します
- IXL ライトはオイルシールやガスケットを痛めません また他のどんな添加剤と併用できます
- 添加率 エンジンオイルに対する添加率は基本的に 初回 5~6%、次回以降 3%となりますが、レース仕様・重機類は 6%を続けて下さい
- ディーゼルエンジンの DPF 装着車にも問題ありません
- ブレーキ・クラッチ系統はオイルではなく「フルード」の為 一切使用できません

●IXL ライトはハイブリッド車の低粘度オイル (0w・5w) へも安心して添加できます

[最新の国際規格 (API/SP、ILSAC/GF-6) ENEOS X PRIME (エネオス エックスプライム オイル) も安全のテスト済み]

- エンジン停止・始動を繰り返す省エネカーのエンジンのシリンダー内壁を保護します
- IXL は「寒冷時のエンジン始動」からシリンダーへ負担がかかるのを保護します シリンダー壁に皮膜が形成されるのでドライスタートや寒冷時のエンジン始動時シリンダーへ負荷がかかるのを保護します

エンジンオイル全量の 初回 5~6% 次回以降 3%	ターボチャージャー ターボオイルの 3%
パワステ パワステオイルの 3% 1リッターにつき 30cc 程度	ホイールベアリング グリス量に対し 3%
デフ オイル全量の 6% デフ入れ過ぎに注意	CV ジョイント グリス量に対し 3%
オートマオイル 軽~普通車 100cc 程度 その他の車 オートマオイル全量の 2~3% ATF パルゲージ 穴より添加可 プラス添加で	マニュアル・ミッションオイル オイル全量の 3% 大型機械・トラック 粘度 80 までの潤滑油は 6% 粘度 80 以上の潤滑油は 12%
小型エンジン、発電機 オイル全量の 3%	ポンプ・コンプレッサー 15cc 程度
油圧機器 3%・切削油（水溶性を含む）6~12%	エアコン空調機 フロンガスとコンプレッサーオイル合計の 3%

オートマ・パワステへは 特にトラブルがなければ添加する必要はありません

IXL ライトは摩擦を激減する添加剤の為 摩擦で動力を伝える CV-T「無段変速用ミッション」へ添加できませんが エンジンオイルへは 全く独立した構造なので添加できます

1 回の添加で 1 万~1 万 5 千 km は有効ですがエンジンオイルの寿命を延ばすものではありませんので オイルの交換時期は車両メーカーの指定期間を守り オイル交換の際に添加をお勧めします

また交換時期が迫っている時の添加は せっかく添加した IXL が十分な被膜を形成されるまでに捨ててしまう事になりますので オイル交換の際がお勧めです トランスミッション・オートマ・パワステ・デフ等では IXL は 6 万~10 万 km は効果が持続します

●エンジンオイルへ添加 例) 交換オイルの全量が 4 リッター(4000cc)なら 初回の添加率 5~6%で $4000 \times 0.05 \sim 6 = 200 \sim 240\text{cc}$ を添加します 次回以降は半分の 3% 120cc で効果を持続します

添加の際はもとのオイル量は減らすことなく添加して下さい 添加量が数%なのでレベルオーバーの心配はなく 添加された IXL はエンジン内部に皮膜を形成し続けて徐々に減ってゆきます

●ガソリン・軽油へ添加について 添加率が かなり薄めなので 入れ過ぎに注意！！

★市販されている添加剤は自動車メーカーの指定製品ではありません 個人の責任でご使用下さい

旧製品 IXL メタルコンディショナーのドロっとした内容成分が無くなったため「油膜でガラスがくもる」などの報告は現在までなく エンジンオイルが循環しない燃料系統へ IXL 効果を発揮します

IXL 1cc で 2.6 リッターへ添加できます ☆インジェクション、キャブレーターや燃料系統へ燃費向上の IXL 効果あり

燃料への添加率 1 対 2560(一般車) [レース仕様は倍の濃いめでレース当日は添加不要 被膜が出来上がってる為]

一般車へは 数回に一度程度 満タンにするタイミングで OK 2ST エンジンへはオイル缶へ直接 1~3%を 事前に添加しておく毎回の添加が不要で便利です (チェーン・ベアリングはチェーンオイルを塗布後 直接塗布) 例) 原付 2ST エンジン オイル 500 cc 缶へ 1%で 5 cc を レース仕様は 2~3%の添加率で(別紙参照)

IXL を軽油燃料へ添加すれば (1cc で 2.6 リッターへ) ディーゼルエンジンの EGR システムを潤滑にし 黒煙が激減し 車検の排ガス カーボン検査に効果絶大です (*EGR は排出ガスの一部を吸気側に 戻して燃焼ピーク温度を下げ、有害物質である NOx を低減する仕組み)

車検オパシメーター検査ではディーゼルエンジンの排ガス規制が強化されていますので通常から燃料へ添加がお勧めです DPF 装着車「ディーゼル微粒子捕集フィルター(DPF)」にも全く問題ありません

●バイクの湿式クラッチを含むエンジンオイル・ミッションオイルへも添加可能です

バイクのクラッチはオイルに浸かった状態の湿式多板クラッチが多く、クラッチにフリクションプレートと呼ばれるレジン・ファイバー素材の摩擦材を貼ったプレートには IXL は反応しないので、バイクのクラッチが滑ってしまうなどの問題はありますが フリクションプレートの磨り減った多走行エンジンで滑りが生じた時はオイル交換で徐々に解消します IXL を添加すれば渋いシフトを解消し滑らかに吹き上がります

●ブレーキ・クラッチ系統はオイルではなくフルードの為一切 使用できません

●CVT「無段変速用ミッション」は 金属ベルト等の金属どうしの摩擦で動力を伝達する仕組みなので すべりが生じるため添加できません

IXL は金属が擦れ合う摩擦面(局圧点)に皮膜を形成して摩擦を激減しますので金属の摩擦を利用して動力を伝達する次の方式 - シリコンオイル系のオートマ、ポジトラック、LSD が入っているデフなど滑りが生じる為 使用をお勧めできません。 但しトルセン、ヘリカ、シュアトラック式 LSD は機械式伝達構造のため使用可能です

CVT か否かは取説で確認して下さい (オートマ 3 速・4 速等とあればギア式変速オートマなので添加可) ★間違っても添加した時はオイル交換すれば滑りは徐々に止まります

★市販されている添加剤は自動車メーカーの指定製品ではありません 個人の責任でご使用下さい 目に入った時は ぬるま湯で十分に洗浄して下さい また幼児の手が届かない所で保管の事！！